

特 集

タウンウォッキングから環境を考える －多文化共生時代の中での「環境問題」とまちづくり－

2007年11月3日(土)、日本学生支援機構北海道支部・北方圏センター・北海商科大学の共催で、道内の大学で学ぶ外国人留学生と日本人大学生を対象に、環境に関連した施設等の見学(タウンウォッキング)や基調講演、グループディスカッションなどを通して環境を考えるというイベントが開催された。当日、11の国・地域から集まった40名の学生は「省エネ」、「交通」、「環境教育」、「食」、「まちづくり」の5つのテーマにわかれ、それぞれの分野で白熱した議論を交わした。

タウンウォッキング

タウンウォッキングでは、参加者は各グループ担当のアドバイザーの案内により市営地下鉄の1日乗車券「ドニチカキップ」を利用して市内各所を回った。街や公共施設内の電気使用状況や電気店で売られている省エネ家電の調査(省エネ)、札幌駅周辺の駐輪・駐車状況やカーシェアリング会社の見学(交通)、各公共機関に設置されている分別ゴミ箱の比較(環境教育)、コンビニ弁当の包装状況や百円ショップとフェアトレードの比較(食)、建設会社の環境に配慮した「スーパーイコビル」見学(まちづくり)、など、まちの中に点在しているものが環境へ配慮しているかどうか、実際に自分達の目で確かめ考えようということであった。



札幌市環境プラザで説明を聞く



店頭で北海道産原料を用いたお菓子の数々を見るタウンウォッキング参加者たち

基調講演(要旨)

基調講演では、講師に迎えた岡崎朱実さん(NPO法人北海道グリーンファンド理事)が、現在の環境問題の課題と北海道での取り組みについて話した。

はじめに、温暖化の影響で北極海の氷が広い範囲で溶けてきていることによってホッキョクグマの生存が危ぶまれていることや、我々の生活においても、例えば台風の数や勢いにも影響を及ぼしていると説明され、二酸化炭素(CO₂)など地球温暖化の原因とされる温室効果ガスの過排出の危険性について図表を示しながら説明した。近年では、家電や自動車など家庭部門での排出量が増えており、特に北海道は冬の暖房や給湯ボイラーなどが原因で温室効果ガス排出量が全国平均を大きく上回っていると指摘し、CO₂排出量を抑えるためには、普段の生活の



一般参加者も交えての基調講演(講師:岡崎朱実さん)